

平成25年度

熟年相談室なぎさ和楽苑 地域連携会議

「地域で熟年者を支え続けていくために」

～西葛西・中葛西・清新町地区で見守りの輪を広げよう～

(報告書)

開催日時：平成26年2月20日（木）

14：00～16：00

場所：葛西区民館（集会室4・5・6）

平成25年度
熟年相談室なぎさ和楽苑 地域連携会議
「地域で熟年者を支え続けていくために」
～西葛西・中葛西・清新町地区で見守りの輪を広げよう～

次 第

日 時 平成26年2月20日(木)
14:00～16:00
場 所 葛西区民館集会室4・5・6

1. 主催者挨拶

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 苑長 平方 俊 雄

2. 出席者代表挨拶

葛西地区自治会連合会 会長代行

宇喜田・小島地区自治連絡協議会 会長

宇喜田新町自治会 会長

大 関 道 彦 様

江戸川区医師会第4支部 支部長

菅谷クリニック院長

菅 谷 繁 年 様

3. 熟年相談室のご紹介

4. 葛西南圏域における熟年者の総合相談の現状について

5. 事例紹介

6. 意見交換

7. 各グループより発表・課題提起

8. 閉会挨拶

葛西第三地区民生・児童委員協議会 会長

下 山 榮 子 様

9. 閉会

平成25年度 熟年相談室なぎさ和楽苑 地域連携会議 出席者グループ名簿
平成26年2月20日(木)14:00～16:00 於葛西区民館 集会室4・5・6

1グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
大関 道彦	葛西地区自治会連合会 会長代行 宇喜田・小島地区自治連絡協議会 会長 宇喜田新町自治会 会長
菅谷 繁年	江戸川区医師会第4支部 支部長 菅谷クリニック院長
吉沢 中代	ライオンズマンション小島町自治会 会長
下山 榮子	葛西第三地区民生・児童委員協議会 会長
関口千鶴子	江戸川区くすのきクラブ連合会 くすのき第二新田長寿会 会長
村瀬 恵子	葛西昌医会病院 法人本部 地域連携室 主任
大越 利依子	特定非営利活動法人 江戸川在宅支援グループ 理事長 主任ケアマネジャー
小沼 光歩	江戸川区役所福祉部介護保険課事業者調整係 係長
平方 俊雄	社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 苑長 (社会福祉法人 東京栄和会 理事長)
萩原 直美	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 主任相談員・看護師

2グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
沖 渥代	葛西地区自治会連合会 葛西南部地区自治連絡協議会 会長 清新北ハイツ自治会 会長
木村 信治	西葛西ビューハイツ自治会 副会長
小野 正明	西葛西井上眼科病院 事務長
松丸知恵子	葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部会 部長代行
藤野 嘉子	江戸川区くすのきクラブ連合会 くすのき葛和正寿会 会長
渋谷 英子	東京臨海病院 医療福祉事業課 MSW
船倉 京子	ケアプランいずみ 主任ケアマネジャー
柳澤 誠	東京消防庁葛西消防署警防課防災安全係 地域防災担当係長
池田めぐみ	社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑 地域部長
佐々木有加	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 相談員

3グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
白子 達男	葛西地区自治会連合会 葛西中央自治連絡協議会 会長 新田町会 会長
石本やす子	清新プラザ自治会 会長
野崎 基子	葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部会
石井奈奈子	森山記念病院 医療福祉相談室 MSW
小林 栄子	株式会社ゆうちょ銀行 葛西店 窓口サービス部 部長
寺本 房子	特定非営利活動法人 ココCOLORねっと 市民助け合いネット コーディネーター
甘利 充弘	有限会社カズキ不動産
三田希美子	江戸川区役所福祉部福祉推進課計画係 係長
重永 真琴	社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑さわやか相談室 主任ケアマネジャー
保戸田裕美	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 相談員

4グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
榊 省吾	葛西住宅自治会 会長
菅谷千代子	清新南ハイツ自治会 副会長 葛西第三地区民生・児童委員
中川 忠光	小島町会 町会役員
岸 良子	葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部会
森下 精一	セイワ薬局
寺本 孝行	特定非営利活動法人 ココCOLORねっと 西葛西事務所 事務局長
谷吉 典子	森山ケアセンター居宅介護支援事業所江戸川 ケアマネジャー
植木 律子	清新町健康サポートセンター 所長
高根 陽子	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 相談員

5グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
下山 博夫	シティコープ清新自治会 会長 葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部長
重松 栄一	小島二丁目団地自治会 会長 葛西第三地区民生・児童委員 (所用によりご欠席)
畠中美智子	コーシャハイム清新自治会
和泉澤克江	葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部会
八文字早百合	ファミリーヘルス推進委員会 清新町地区会 会長
十時すず子	森山リハビリテーション病院 医療福祉相談室 MSW
村上 晴子	しあわせプラン 主任ケアマネジャー (ケース対応のためご欠席)
西本 光代	江戸川区消費者センター
大堀由紀子	社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑さわやか相談室 主任ケアマネジャー
菊地沙由加	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 相談員

6グループ

氏 名(敬称略)	事 業 所・団 体 機 関 名
板坂登喜子	中葛西住宅自治会 会長
赤羽根智英子	清新町都営住宅自治会 会長
六笠 良雄	葛西第三地区民生・児童委員協議会 熟年福祉部会
立花 敏朗	ミルキー薬局
埜本 恵子	清新町高齢社会を考える会
西河 修	JKK東京(東京都住宅供給公社)新小岩窓口センター 巡回管理人
吉田 悦子	江戸川区社会福祉協議会 安心生活センター 副所長
新海 歩美	江戸川区役所福祉部介護保険課事業者調整係
最上佐恵子	社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑さわやか相談室 主任ケアマネジャー
座波 智世	社会福祉法人 東京栄和会 熟年相談室なぎさ和楽苑 相談員

取材 (株)明光企画(葛西新聞)

1. 開会挨拶

社会福祉法人東京栄和会 なぎさ和楽苑 苑長 平方 俊雄

熟年相談室の母体である社会福祉法人、また特別養護老人ホームの立場からご挨拶申し上げます。

熟年相談室主催でこのような地域連携会議が開催できることは非常に意義のあることだと感じている。地域には多くのひとり暮らしの熟年者が生活しているが、葛西地区の特徴として集合住宅も多く、戸建てであれば生活の様子（夜に電気がついている、カーテンが閉まっているなど）がわかりやすいが、集合住宅だと様子がほとんど分からないケースもあるのではないかとと思われる。

本日お集まりの皆様のお知恵や様々な工夫などについてもぜひ活発な意見交換をして頂き、地域でともに熟年者を支えていきたいと考えている。



2. 出席者代表挨拶

葛西地区自治会連合会 会長代行

宇喜田・小島地区自治連絡協議会 会長

宇喜田新町自治会 会長

大関 道彦 様

葛西には90の町・自治会があるが、本日は14の町・自治会長がお集まりと聞いている。昨年度は、葛西地区合同での地域連携会議がタワーホール船堀で開催されたが、より顔の見える関係を強化していくためには、本日のような熟年相談室ごとの地域連携会議が活発に開催されることが重要である。葛西地区には大きな集合住宅も多いが、近年、町会・自治会に入らない方が増えている。今後一人暮らしの熟年者も増えてくる中で、町会・自治会に入らない方々をどうやって見守り、助けていくことが出来るのかについて、町会・自治会の立場でも考えていきたいと思っている。



江戸川区医師会第4支部 支部長
菅谷クリニック院長

菅谷 繁年 様

江戸川区医師会では地域を支部に分けており、葛西橋通りから南側は第4支部と呼んでおり、その第4支部長を務めさせていただいている。森山記念病院の裏手にてクリニックを運営している。訪問診療は積極的に行なっていないが、地域に密着した医療を目指している。

このような地域連携会議が開催されることは、非常に有意義であると感じる一方で、地域住民や関係者の善意だけでは、高齢者の問題を地域で支えることには限界があると思っている。もう少し行政が積極的にリーダーシップを取る事が求められているのではないかとと思っている。



3. 熟年相談室のご紹介

熟年相談室なぎさ和楽苑の職員の紹介をさせていただきました。

4. 葛西南圏域における熟年者の総合相談の現状について

当日は配布資料をご覧いただきながら、「担当圏域の高齢化率等の地域の特徴」、「相談対応や地域活動を通してみえてきた地域や連携の課題」についてお伝えさせていただきました。

また、地域での見守りについて、「高齢者等の見守りガイドブック」を参考資料としてお配りさせていただき、ガイドブックより抜粋したポイントをお伝えさせていただきました。

5. 事例紹介 ⇒下記の事例を紹介いたしました。

平成26年2月20日地域連携会議事例シート

事例の紹介

氏 名 : Aさん 女性 昭和7年生まれ(81歳) ひとり暮らし
疾 病 等: 高血圧症・認知症・腰痛あり 今までに大きな病気をしたことはない
身体・生活の状況: 杖を使用して外出可能 家事や洗濯など何とか自立 元気な様子あり
経済状況: 年金12万円(/月)
居住環境: 集合住宅(都営住宅)に居住
室内は物が多く片付けが苦手な様子あり
社会交流: 挨拶程度の近所付き合いのみ
そ の 他: 消防署による防火・防災診断を受けている。(熟年相談室立会い)
民生・児童委員による見守りあり

家族状況

夫: 3年前に他界

子: なし 遠方に姪がいるが関わりはあまりない

相談の内容

- ・ゆうちょ銀行の職員より心配なお年寄りがいると熟年相談室に相談が寄せられる。
「通帳を紛失してしまった」、「通帳が盗まれた」などと何度も窓口に来店し、通帳の再発行の手続きを行なっているが、認知症があるのではないかと心配である。
- ・消防署の防火・防災診断を受けたが、古い家電製品や荷物が多く、火災の危険がある。
また家具の転倒も心配され、災害時に避難できるか心配である。



①近隣住民から自治会長へ相談が寄せられる。

「2, 3日前から姿を見かけない」「新聞が何日分かたまっている」

②自治会長より民生委員に相談、またJKK都営相談係へ連絡、巡回管理人と共に訪室するも応答なし。

③緊急連絡先の姪に連絡するもつながらず。民生委員より熟年相談室に相談が寄せられる。

④熟年相談室から江戸川区役所福祉推進課孝行係に連絡、熟年相談室、孝行係職員と共に訪問。孝行係職員より警察に通報し、入室するも不在。

⑤後日、外出先で転倒し近くの病院に入院していることがわかる。退院後に介護サービスが利用できるよう、病院の相談員と熟年相談室の支援で介護保険を申請し、ケアマネジャーと共に支援を継続していく予定である。

○ご本人の「ちょっとした変化」に「気づき」、「見守り」、「支える」ためには、日頃から地域ぐるみで顔の見える関係を構築しておくことが重要ですね。

⇒ 3 名の方にそれぞれのお立場からコメントをいただきました。

東京消防庁葛西消防署警防課防災安全係 地域防災担当係長 柳澤 誠 様

平成 25 年の東京都内住宅火災における死者 72 名のうち 49 名、68%が高齢者、そのうち住宅用火災報知器未設置 42 名であった。現在住宅用火災報知器設置は義務化されているが、設置率は葛西地区でも 60%程度にとどまっている。火災による死者の原因の第 1 位はタバコだが、最近は着衣着火、電気火災が増加してきている。高齢者に関する火災件数が増加しており、熟年相談室とも連携して、平成 25 年度より本格的に防火診断を行なっている。



J K K 東京（東京都住宅供給公社）新小岩窓口センター 巡回管理人 西河 修 様

主な仕事は、高齢者で身体的に不自由な方で、新小岩の窓口に窓口申請手続きに行けないような方に、ご希望があれば 2 ヶ月に 1 回訪問して申請・修理依頼など申請書類の代行業務などを行なっている。安否確認の連携については、平成 26 年 1 月に江戸川区とも協定を締結し、相談が来たら 24 時間体制ですぐに鍵の業者を手配して駆けつけ、通報者には消防か警察へ通報頂き、警察の立ち会いの下で入室確認を行っている。事前にその方のご様子がかかるか確認のために、区や熟年相談室へも照会するようにしている。



株式会社ゆうちょ銀行 葛西店 窓口サービス部 部長 小林 栄子 様

平成 25 年 9 月に社員向けに認知症サポーター講座を熟年相談室なぎさ和楽苑に開催してもらい、認知症の方に対しての理解、対応方法の基礎を学んだ。10 月に入り実際に認知症と確認できる方が来店し講座が役に立った。数か月で認知症がかなり進行し通帳紛失、そして次第に通帳を探すことを忘れてしまい、最後には「お金を貸してください」という事になった。家族は離れて生活していたので認知症の進行に気がつかなかった。ご家族の協力を頂きお客様の状況を把握しながら対応していくことが重要であると学んだ。これから高齢社会が加速してゆくためご家族、地域の方を連携して支えていきたい。



6. 意見交換（各グループにて）

◎各グループ（1グループ～6グループ） ごとのご意見（概要）

<1グループ>

①：地域での課題、日頃感じていること

- ・町会の地域的には実際の住人中、未加入者が2/3を占めている。民生委員は町会に加入している人が担っている。また戸建てに住んでいる人たちは高齢化が進み、ご夫婦でもどちらかが亡くなって独居となっている。高齢独居となると組長、班長が出来ないという理由で町会を辞めてしまう人も多い。しかし町会に加入していない人に対して町会で見守りが出来るかという点と難しい。民生委員やふれあい訪問員は権限があるから入って行けるがプライバシーの観点で町会に入っていくことが難しい。そのため新聞が溜まっているなど心配な方は民生委員に相談をしている。国民年金や生活保護の方は町会費の支払いも負担となっている。区に申請すると広報配布料として600円いただけるが、町会費の補助もあったら辞める人が減るのではないかと。町会に加入している人に対しては介入しやすいので検討して欲しい。（町自治会会長）
- ・集合住宅で管理人さんがいる所は連携が図りやすい。いないところは引きこもりの方が多いように感じるし、課題のあるケースが多いためこまめに行くようにはしている。引きこもりの方は何回も通って心が伝わると出てきて下さる。一度出て来られるとその後もうまくいく。認知症の方を早期に発見することも課題。数か月の間に進んでしまうこともある。集合住宅であれば同じフロアの方などが見つけて下さると良いと思う。虐待も同様だと感じる。（民生・児童委員）
- ・悪くなってから救急搬送となるケースが増えており、身内を探すために電話を100～200件電話することがある。やっと身内に連絡がついてもその方からは死んでも連絡しなくていいと言われてしまい、亡くなると無縁仏になってしまうケースが増えている。認知症の方が認知症の介護をしている方も多い。自宅を訪問して親族の連絡先を調べて包括に相談をしたり、成年後見の相談をすること、在宅生活を整える支援、急性期の認知症の病院へつないでから在宅に戻す支援も増えている。医療機関だけでは出来ないことも多く、地域で協力をしなければ難しい。新聞配達、コンビニなどとも連携が必要だと感じている。病院は早期発見早期治療につなげていくこと、内服薬も良い物が出てきているので予防の方に力を入れていくことが必要だと感じている。地域に出向いて勉強会などのお手伝いもしていきたい。（医療関係者）
- ・一人暮らしの方たちのために4年前から自治会喫茶を始めた。15名前後の方が参加しているが、出て来ない方が心配。定年後、独居の男性が多い。先日の夜、住民から救急車を呼んでほしいと電話が来た。別居の娘さんに連絡をしようと話したが、仕事で不在なことは分かっていたので本人から連絡しないで欲しいと言われた。救急車は自治会長が同行することで了解されたが病院で集中治療室に入り、夜中になってしまったため娘に連絡したところ、何でもっと早く連絡くれなかったのかと、かえって怒られてしまった。自分はどうしたらよかったのだろうかここ数日悩んでいる。ご近所のお付き合いは難しい。（町自治会会長）

⇒救急車を呼ぶ、子供に連絡する等、拒否する方は多い。民生委員の時は上手い口実を考えて説得した。家族の連絡先を事前に聞いていたので連絡出来た。誰にも迷惑をかけたくないとおっしゃる方は多い。(くすのきクラブ会長)

- ・緊急連絡先は必要ないと言って教えていただけないケースも増えてきている。
個人情報課題(町自治会会長)

- ・地域の方だからこそ立ち入れないこともある。社会資源というものをどれだけ知っているか、また出来ることと出来ないことがある、限界を知ることも大事。地域の中でSOSを出す、地域包括支援センターなども連携を図り、問題を解決するのではなく、出来ることは何か、最善の方法は何かをみんなで考える。地域の方が支えて下さっている。誰がやるかよりもどこにつなげるかを考える。集合住宅の高齢化を若い人たちが支える仕組みが必要。埼玉のニュータウンではゆりかごタクシーという仕組みがある。家族は閉塞的になっているので世代間の支え合いが必要。社会との交流を拒否する人もいる。NPOとしてはそういう方にこそ対応が必要だと感じている。(主任ケアマネジャー)

⇒自治会としては子供会、青年部の加入も少ない。そのような会自体も少ない。マンションなどが出来た時に自治会加入をお勧めする時は子供会の活動などをご案内して加入していただく方法をとっている。古い町会は加入率が高いが新興住宅地は加入率が低くて課題となっている。(町自治会会長)

- ・熟年相談室に今回の地域連携会議を開催してもらっている。区内の全地区で開催している。地域によって課題が違う事が見えてくる。小岩地区は戸建てが多くて高齢化も進んでいる。葛西も今後そうなるだろう。J K Kからも話があったが、安否不明者のところに区と熟年相談室で訪問することがある。確認が取れないと警察を呼んでカギを壊して警察の方に入っていただく。その際はどこからそのような連絡が入ったか、夜中まで事情聴取を受けるなどある。そのようなときは区も協力をして対応している。(介護保険課事業者調整係)

②: ①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等
地域での役割(業務)として取り組んでいる事等

- ・新田町会の中の長寿会、健康の保持、見守りを兼ねてリズム運動を実施。区から運動指導員が来て週2回(水・金)。見守りとしていつも来ている人が2週休んだら、仲間で様子を確認するようにしている。また自宅内で転倒するケースも多い。姿を見かけない時は周囲の方が様子を見に行っている。リズムに來れなくなると熟年ふれあいセンターに行っている人もいる。また趣味活動としてコーラス、フラダンス、民謡、舞踊、カラオケなどある。全員は入ってはいないがどこも入っていない人のためにお誕生会がある。招待なので参加率はよい。(全員年1回は招待される)(くすのきクラブ会長)

- ・ 100件ほどの集合住宅。30年来のお付き合いになるので様子を知っている方が多い。高齢化は進み、一人暮らしも1割を占める。そのような人たちのために4年前から自治会喫茶を始めた。コーヒー、パン、ゆで卵など100円で提供。持ち寄りもあり賑わっている。(町自治会会長)

② その他

- ・ 特養の入居待ちは何名位？倍率は？…1000名ほどの待機、2.5倍くらいではないか。
- ・ 清新町は避難訓練をした方が良いと思う。(主任ケアマネジャー)
…防災の拠点として西葛西に新しい施設が出来る予定。(介護保険課事業者調整係)

<2グループ>

① 地域での課題、日頃感じていること

- ・ 単身、高齢者で癌など通院の必要性があるが受診継続にならないケースがある。包括を頼って安否を取ることがあるが、病院からはなかなか知ることができない地域・自治会のネットワークを知りたい。(医療関係者)
- ・ マンション自治会にも若い世代が入ってこなくなった。どう働きかけてもつながらない。マンションで13名の独居の方への声かけや食事会など行うが参加人数も最近少ない。認知症の方が増え、物探して警察を呼んで対応したこともある。(町自治会会長)
- ・ 75歳以上の独居の方の訪問をしているが、お渡しするものがなくなってしまい以前より顔合わせが難しい。認知症などあるが自分はお世話にならないと断り続ける方やもう来ないでくださいと言う方がいる。連絡先も教えてもらえない。報知器の設置確認など協力できることもある。(民生・児童委員)
- ・ 一人暮らしの方の気持ちがわかる。迷惑をかけてはいけないという気持ち。震災以降、普段のつながりをさらに大切にしている。挨拶を大切にして挨拶を返さない方もいるが急がずに対応したい。(町自治会会長)
- ・ 眼科に救急車でくる患者が増えている。主訴は足が痛いなど。認知症などで外来受診時や入院時の対応に困ることあり。車で送っていくケースもある。独居の方は帰宅後も心配。病院がどう地域貢献できるのか、また今後していきたい(医療関係者)
- ・ 毎日救急車を呼び、話し相手だけで終わる方がいる。その方とは今は30分ルールがある。独居、高齢者の地域との関わりがなく、急病人がいるがドアが開けられない。承諾を得るにも時間がかかる。隣の人に聞いてもわからない。つながりの重要性が大切であると思う。(消防)

- ・若い方が地域に入っていない。次につながっていくにはどうしたらよいか、大きな課題。独居高齢者には声かけや新聞がたまってないかなどの見守りを続けている。独居高齢者でも自分は必要ないと断る方も多くなっている。会費の問題もある。(町自治会会長)
- ・単身、高齢者の支援で地域との連携が難しくなっている。SOSシートは知らなかったなので、今後活用していきたい。(主任ケアマネジャー)

②：①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等
地域での役割（業務）として取り組んでいる事等

- ・マンション内で声掛け、食事会の開催。(町自治会)
- ・単身、高齢者への定期的訪問と継続的なアプローチ。(民生・児童委員)
- ・自治会では個人名簿はないが必要時は管理組合に聞くこともある。(町自治会)
- ・消防署と熟年相談室の連携で防火診断を行ない熟年者宅に訪問。(消防)
- ・病院として地域にどう貢献できるか考えていきたいと思っている。(医療関係者)

③その他

- ・若い世代の無関心をどうしたらよいか、対応に苦慮している。(町自治会)

<3グループ>

①：地域での課題、日頃感じていること

- ・個人情報について、隣人の情報も分からないというすごく窮屈な世の中になったと感じる。意識を変えていくことで、スムーズな対応ができるのではないかと感じる。
(有償ヘルパー団体)
- ・自治会長であっても、自分のフロアーしか目が行き届かない。管理組合があるが、毎年情報をリニューアルできておらず、情報収集には個人情報の壁がある。サービス利用者であれば、関係機関等に情報があるという点で安心である。(町自治会)
- ・単身独居で、金銭管理が徐々に困難になる方が増えている。急性期病院では、成年後見制度の利用を検討しても、実際の利用に繋がる前に退院となるため、短期的な対応が求められる。(医療関係者)
- ・厚生労働省は、地域包括ケアシステムが今後の超高齢化社会を支えると打ち出しているが、地域でどう実現できるのかと感じている。来年度からの介護保険改訂検討委員会で、江戸川区版の地域包括ケアシステムについて具体的なものをつくりたいと思っている。(福祉推進課計画係)

- ・広域な町会であるため、班長が隣近所 5～6 軒を把握するシステムがあるが、社会交流を拒む方もおり、把握には限界がある。また町会名簿作成については、電話の情報提供を拒まれる方もいるのが現状である。

降雪の際、雪かきが困難な高齢者について隣近所で対応し、初めて近所に若年層や熟年層の存在を知り、近所の助け合いはこうあるべきと感じた。社会交流がない方が多いのも現状で、町会に入ってくださらない方も多いことが課題。

町会内にある自治会については、民生・児童委員やファミリーヘルス、町会役員の対応はあっても、個人情報の問題もあり、把握しきれない課題がある。

毎年 9 月に長寿の祝い品配布により、年齢や世帯構成など高齢者の把握を行っている。独居の傾向があり、孤独死の現状が増えていくと感じている。(町自治会)

- ・認知症の方が窓口へ来客され、他のお客様が理解しづらい言動もみられるため、配慮が必要と感じている。今後も地域包括支援センターや他機関と連携をとっていきたい。(ゆうちょ銀行)

- ・緊急連絡先を公表されない方もいるが、一方で阪神淡路大震災・東日本大震災を経て、緊急連絡先をお伝え下さる方も増えてきている。

自治会のないマンションでの一人暮らしも増えているが、把握できていない。訪問時に、不在連絡票を入れても、会えない方が多い。(民生・児童委員)

- ・介護保険サービスはご本人の意向がないと繋がらない。サービスに繋がらない方は、相談窓口が分からない方も多い為、日頃より関係性のある地域の方が、本人とケアマネジャーや熟年相談室との間に入っていただけると、本人も心強いと感じる。(主任ケアマネジャー)

②：①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等
地域での役割（業務）として取り組んでいる事等

- ・年末年始が連休となるため、年末と年始の挨拶で、高齢者宅に電話をするようにした。(不動産)

< 4 グループ >

①：地域での課題、日頃感じていること

- ・昔からの住民は、別居家族や親戚が傍におり多くの目が周囲にある一方で、新しい住民は接点がない。また昔からの住民はくすのき会に参加しているが、新しい住民は未加入者が多く、地域同士の交流が無いため、町会としての課題と考える。新旧の住民の違いを考えていく必要がある。(町自治会)

- ・担当地域の高齢化、認知症の方の対応も増え、J K K や熟年相談室と日々連携を取っている現状。

老化していく事を認めたくない、認めることで人格を損ねてしまう方との関わりを難しく感じる。(民生・児童委員)

- ・集合住宅の住民も高齢化し、熟年相談室、病院を利用している人も多く、救急車対応も日々ある状況。

認知症の方の対応で早朝より管理人が対応することもあった。(町自治会)

- ・健康サポートセンターは元々、保健相談所として地域相談所としての機能があったが、現在子どもに関する支援の比重が高くなっており、(子ども健診、育児支援など。時代として子育てが上手くいかない親支援のニーズも出ている) 高齢者の相談は主に熟年相談室へ移行しているのが現状。

健康サポートセンターは地区担当の保健師が8名おり、西葛西、中葛西、清新町、臨海町と8万人弱程の地域を担当している。熟年相談室、民生委員、町自治会など、様々なところとの連携を取って行きたいと考えている。(健康サポートセンター)

- ・認知症でも受診へ繋がらず、内服もできない方が気に掛かる。身近な周囲の方々が、認知症のことを知って、状態が悪化しないように声を掛けていくことが大切と感じる。訪問管理指導(在宅患者訪問薬剤管理指導)について対応も少しずつ増えているので、薬のことで力になればと思っている。(薬局)
- ・民生・児童委員として活動しているが、地域には40年近く暮らしている。地域の様子として、二人暮らし、一人暮らしが増え見守りの必要性を感じている。(民生・児童委員)
- ・ご相談としては、既に困ってしまった方が対象となっているため、初動期の相談を受ける関係ができていない。地域包括医療を目指し、法人としても入所施設、医療機関の機能があるため、地域のお役に立てるようになっている。(主任ケアマネジャー)

②: ①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等
地域での役割(業務)として取り組んでいる事等

- ・地域の薬局数も増加しており、身近な相談窓口としての機能できるといい。処方箋を取り扱う薬局は、病気に応じてどの科を受診した方がいいか等の知識や情報は持っているので、地域へ提供できるといい。(薬局)
- ・高齢者の把握については、町会の各組織による把握を行っている。また町会で活動下OBなどはクスノキクラブへも参加している強みがある。(町自治会)
- ・交流の場へ出づらくなった方へ、ファミリーヘルスで実施しているミニデイ等の取組みを繋げられればと思う。この様な地域資源についてまだ知られていないことが課題であるので、地域への情報発信の必要性を感じる。(健康サポートセンター)

③その他

- ・ 熟年相談室への相談ルートへヤクルト等の宅配業者からの相談件数が低いと感じる。そのような業者へ呼びかけ見守りの連携をより充実していく事も必要と感じた。(有償ヘルパー団体)

<5グループ>

① 地域での課題、日頃感じていること

- ・ 個人情報への壁を感じている。一人暮らしの方がどのくらい居住しているのか把握ができない。「こんにちは訪問」を実施しようと考え住民の方にアンケートを実施したが返答が2名しか来なかったという現状がある。担当の民生委員さんに情報を聞くことができるのだろうか。(自治会)
- ・ 昨年まで梅干し配りの実施をしていたもの今年から廃止されてしまった。訪問の際に緊急時の連絡先や家族の状況などの把握も聞き取りでできていた部分があったが今後は訪問がないのでどうなっていくか懸念している。また、隣近所の顔が見えない状況で、ないない状況であることを日々強く感じている。(自治会会長、民生・児童委員)
- ・ 活動の場に出て来られる方が決まってしまっている。(自治会)
- ・ 表札も出していない住民も多いと感じる。(自治会)
- ・ 消費者被害の相談が本人より入るが親族(子)には言わないで欲しいと本人の訴えがあり、対応までに困ってしまう事が多い。金銭トラブルの時が特に感じる。(消費者センター)
- ・ 軽度の認知症について、親族と接点を持ち受診につながり内服も処方、回りで様子を見ながら見守っている。回りは認識していても親族(子)の理解や認識したくないという気持ちがある時にどのように対応していけばよいのか迷った事があった。(ファミリーヘルス推進員)
- ・ 要介護の状態の中で自宅に帰ることが多い中、働き盛りの子に迷惑をかけたくないと思う本人の気持ちや、老々介護である状況があり日々支援の中で課題を感じる事がある。(医療関係者)

②: ①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等 地域での役割(業務)として取り組んでいる事等

- ・ 自治会の活動で月1回ティールームを開催し、各フロアーにフロアー員を設けマンシオン全体で見守り活動をしている。入居者の名簿作りを行い災害など避難が必要

な時に一人で逃げる事ができるのか介護が必要なのか確認をして年1回ではあるが訓練を実施。消防に関しては管理組合と自治会の共催である。(自治会)

- ・ 清新サロンを週3日の頻度でお茶のみ会の実施始めたりし、レクリエーション学校の学生や先生による運動講座、誕生日会、回覧板回しなどを実施している。(自治会)
- ・ 自治会として清新きずなの会を設立支援会員、依頼会員、賛助会員の全体で50～60名会員、見守りなど活動を自分達で行っている。居住者名簿について管理組合、自治会、くすのきクラブ、きずなの会の4つの組織で協力しており、身体状況についても住民に提出してもらって把握をしている。(自治会会長)
- ・ 軽度の認知症が疑われる方が身近にいたが、親族と接点を持ち受診につながり内服も処方、回りで様子を見ながら見守っている。回りは認識していても親族(子)(ファミリーヘルス推進員)

③その他

- ・ ファミリーヘルス推進員の活動、各地域から数名区より委託され実施、健康講座やウォーキング、デイサービスなど地域に根ざした活動内容になっている。(ファミリーヘルス推進員)

<6 グループ>

① 地域での課題、日頃感じていること

- ・ 気になる人がいることや、これまで定期的に来ていた方がなくなった時にどこに相談をかければいいのかわからなかった。(薬局)
- ・ 見守り活動についてもみんなで協力しあって顔合わせだけでなく、訪問方法についてどのような形で行った方がよいか課題はある。(民生・児童委員)
- ・ 虐待事例も増えてきている為地域の見守りも非常に大切にしている。判断能力の低下を地域の方が気づきそれが、行政や安心生活センターなどに繋いでいただくルートがある中で地域の方は最先端で担っていると日々感じている。(安心生活センター)
- ・ 申し立てに関して親族がなく、区長申し立てが多くなった、昨年は30件程度だったのが、今年は60件を超えている。多くは介護保険課や熟年相談室から上がってくるケースがほとんど、まれに近隣や友人がお金の管理をされていてどうしようもなくなって相談をされるケースもある。(安心生活センター)
- ・ ご家族がいなく単身であることや認知症、家族がおり表面上は問題ないが、食事をとれていないとか家族があげていないようなちょっとした気づきで熟年相談室や相談係にはいつてくる。(安心生活センター)

- ・都営住宅。年々独居が増加。何か活動を行うことに関して、女性は参加率が高いが、男性は極端に参加率が低い、なるべく地域に出てもらおうと毎月掃除を全体で行うことをしているが、男性の参加率は改善しない状況。変化に関して一般的な自宅は新聞を取って新聞がたまっていることで変化に気づくことがあるが、この集合住宅は新聞を取っていない人が多い。その為独居を中心にみんなで声掛けを行うように努めているが難しい。(自治会会長)
- ・認知症の方や JKK の担当と連携し、都営住宅は民生委員や JKK などの管理事務所があり見守り体制はあると思うが、戸建てで町会や自治会もない所での連携はどのようなものがあるか。戸建てで関わりがない方で実際に 3.11 の時に支障が生じていたことがある為心配。又、マモルくんに関してもいい制度だと思うがどの程度浸透しているか気になる所ではある。(自治会会長)
- ・行政でも地域の中で問題を抱えている人がいれば、積極的に関わりを持っていく。気づいた所があれば、吸い上げて支援していければと思う。単身だけでなく地域の皆さんが安心して暮らせる街づくりも含めて、元気で生活していく為にはどうしたらいいか一緒に考えていければと思う。(介護保険課事業者調整係)
- ・当然認知症の問題、定期お茶会に参加した際お菓子を出すとすべて自分で食べて持ち帰ることや、トイレトペーパーも持ち帰る様子もある。ただその人を拒否するのではなくどのように受け入れていこうか検討課題はある。その人が生きやすいように支援することが大事かと思う。メンバーも年をとったり、病気になり参加できなくなった。若い人が入ってこない為、後継者や、若い世代にも関心を持っていただく必要があると思います。(ボランティア団体)
- ・昔からある住宅では見守りがあるが、最近は建て替えて新しい住宅ができ、新たな居住者が入ると関わりが希薄になりやすい。認知症サポーター養成講座は受けたが、会社自体に認知症の対応部署はなく具体的に専門的な対応をしていくことが難しい為、熟年相談室に支援依頼をお願いすることも増えるだろう。(J K K)
- ・長寿会や自治会主催の活動にいけない→閉じこもり→体力低下→介護保険利用の流れとなる。活動に参加できなくなった所でなんらかの支援ができれば、予防や軽度な対応で今までの仲間と過ごせるのではないかと。早期の気づきが必要。(主任ケアマネジャー)

②：①について実際に取り組んでいることや、今後の取組みとして検討していること等
地域での役割(業務)として取り組んでいる事等

- ・いきいきトレーニングや、熟年ふれあいセンターがあるので、対象者の方がいれば積極的に案内している。その他マモルくんについても情報提供している。(自治会会長)

- ・自治会で長寿会（60才以上を対象）を活発に行っている。又、年5回程誕生会等
含め情報交換行っている。（民生・児童委員）
- ・マンション近辺の掃除に関して参加されていた方が参加されないとしたのか、
集会室を開放して編み物をやっている。10年ぐらい続いている。全住民の半数は参
加しており帰りにジュースなど一本お渡ししてねぎらっている。また必要あれば、
J K Kの方へ相談している。（自治会会長）
- ・会としては24年、サロンの活動を18年、お食事会は20年近く行っている。公
的な機関の支援なくすべてボランティアで毎週サロンを運営。（ボランティア団体）



各グループで活発な意見交換が行われました。

7. 各グループより発表・課題提起（グループ発表者によるコメント）

葛西昌医会病院 法人本部 地域連携室 主任 村瀬 恵子 様

抱えている問題として救急搬送された方で入院にならないが帰る家がない、一人暮らし、家族介護力がない。医療関係では急性期の病院では長期の入院対応ができない。またこういった会をもっと行い、人から人へ繋げる事、人とのつながりを持つことが大切だと思う。葛西昌医会病院では5年前から各関係者（地域、行政等）と連携し支援していくようにしている。こういった地域連携会議で色々な人が繋がり連携が取れるようになると良い。



葛西地区自治会連合会 葛西南部地区自治連絡協議会 会長 沖 渥代 様



夜間帯等で各機関がお休みの時の救急時の対応に悩む民生委員も多い。一人暮らしの方の救急搬送時に同乗するのかなど、話合った。個人情報壁、これが厚いと思う。SOSシートや、#7119の活用を積極的に進めることなど情報交換した。

葛西地区自治会連合会 葛西中央自治連絡協議会 会長 白子 達男 様

新田町会は戸建が多い。集合マンションもあるがマンション内の組合があるためマンション居住者の加入率は低い。個人情報で話したくない、社会的な交流も面倒な方がいる。いかに把握するのかという点では情報交換を普段から取ってゆくのが大切だと思う。



清新町健康サポートセンター 所長 植木 律子 様



「薬局でも相談が出来るんだね」とグループでも話が上がった。健康サポートセンターは、子供から高齢者までが対象である。介護が必要な熟年者は熟年相談室とも連携させて頂き対応している。健康サポートセンターでは出来るだけ介護保険を使わずに元気に過ごせるようなお手伝いを熟年者向けにはしている。また健康講座の出前をしている。民生・児童委員、自治会会長、ファミリーヘルス推進員とも連携させて頂いている。熟年者が元気な方が多い。くすのきクラブや他方面で活躍してきたが、そこから活動量が低下して閉じこもりになってきた方などに向けて、健康サポートセンターでは地域でミニデイをやっている。情報提供もできるので活用して欲しい。現在8名の地区担当保健師がいる。

江戸川区消費者センター 西本 光代 様

消費者センターは、主に契約に関する相談を行っている。その中で悪質商法被害の解決、注意喚起の情報提供、また最近は電話勧誘の相談が多い。特に健康食品関係、申し込んでいないのに受け取って支払ってしまっているケースもある。一人暮らしの方だとわからないで受け取ってしまう、または受け取っていないが対処方法がわからないなど、困った際はぜひセンターへご本人と支援者も一緒にご相談頂ければと思う。



江戸川区社会福祉協議会 安心生活センター 副所長 吉田 悦子 様



今回の地域連携会議に参加し、地域を大切にしようという気持ちになった。被害を受けた方や財産管理、成年後見制度、安心生活サポート等が必要な方が、地域で安心して生活できるようにと活動している。個人情報については厳しく受け止めて対応している。気になる方がいれば、ぜひ相談して欲しい。

8. 閉会挨拶

葛西第三地区民生・児童委員協議会 会長 下山 榮子 様

今回の会議はコンパクトで活発に意見交換できる会議だった。民生・児童委員としては、一人暮らしの方の調査をしている。訪問した中で、何か相談があれば気軽にお声をかけており、必要があれば行政につなげるパイプ役をしている。また外からは新聞や、ガス、水道、電気のメーターなどが回っているか等見守っている。来年は都民の4人に1人が高齢者となることを考えると、皆さんと協力して異変に早く気付いて対応する事が重要だと考える。それが消費者被害や認知症の気づきにもつながっていくと思う。



9. 閉会

高齢化率が低く、若い町 若年世代の流入が多く、人口増加 子どもが多い 集合住宅が多い 町会・自治会未加入者が多い
外国人が多い 生活保護受給者が多い 精神疾患のある方が多い ボランティア団体が多い 等

1. 地域で見守る

地域での取り組みや工夫点

- ・独居の方への声かけや食事会、喫茶、サロン（自治会、ボランティア）
- ・サロンでの運動プログラムには、地元のレクリエーション専門学校の協力を得ている。（自治会）
- ・町会内の各班長が5～6軒ずつ把握するシステムがある。（町会）
- ・毎月、集合住宅の清掃活動を通じて見守り活動を行っている。（自治会）
- ・入居者名簿を作成、災害時に一人で避難できるか、介助が必要かを確認、年1回訓練を実施（自治会）
- ・活動を2週続けて休んだら仲間で様子を確認（くすのき）
- ・年末年始などには心配な高齢者宅に電話などで安否を確認（不動産業者）
- ・管理人の配置がない集合住宅は、こまめに訪問している（民生・児童委員）

課 題

- ・町会・自治会未加入者の把握や見守りが難しい（町会・自治会）
→町自治会費の負担、役割の負担、新住民・若い世代の加入率低下。
- ・管理人（管理組合）や自治会組織のない集合住宅の把握や見守りが難しい。（民生・児童委員）
- ・女性に比べて男性のひとり暮らしの方などは見守りを好まない方もいる。（自治会）
- ・梅干し配布による戸別訪問の方式が変わり、情報収集のきっかけが少なくなったと感じる。（民生・児童委員）
- ・最近は新聞を取らない方も多く、新聞がたまる事で気づく方も限られている。（自治会）
- ・個人情報の取り扱いに課題を感じることがある。（自治会）
- ・区の緊急通報システム「マモルくん」の情報がまだ浸透していないのではないか。（自治会）

2. 地域でつなぐ

地域での取り組みや工夫点

- ・居住者名簿を管理組合、自治会、くすのき、見守り活動自主組織の4つの組織で協力し作成、身体状況についても把握。（自治会）
- ・消防訓練を管理組合と自治会の共催で開催。（自治会）
- ・自治会では個人名簿を作成していないが、必要時は管理組合に情報収集（自治会）
- ・ファミリーヘルスの取り組みや活動を広く地域に紹介できるとよいと思う。（健康SC）
- ・火災報知器などの設置や防火・防災診断を通じて消防署との連携が図れるのではないかと。（民生・児童委員）
- ・くすのきクラブへ防災講話を実施（葛西消防署）
- ・熟年相談室との連携により防火診断で熟年者宅を訪問（葛西消防署）
- ・高齢者の安否確認を自治会、行政、警察との連携で実施。（JKK）

課 題

- ・町自治会として、くすのきなどの交流の場へ参加できなくなると把握がしづらくなる。（町会）
- ・自治会やくすのきクラブなどの活動に参加が出来なくなってから、サービスを利用するまでの間をサポートできる体制があればよいと思う。（主任CM）
- ・介護保険を利用しても、地域の友人などとの外出など地域での関わりが継続できるとよい。ただし地域のサポートが負担にならない手法が必要。（主任CM）
- ・熟年相談室への相談ルートとして宅配業（新聞・ヤクルト等）からの件数が低く業者へ呼びかけ、見守りの連携をより充実していくべき（有償家事援助団体）
- ・入院患者の支援にあたっては、医療機関だけでは限界があり、熟年相談室、地域の関係機関との密な連携が必要（医療機関）
 - ・地域医療の拠点である薬局を身近な相談窓口として活用してほしい。（薬局）
- ・通院が必要だが受診継続されないケースについて、熟年相談室にて安否確認する場合もあるが、病院からはなかなか知ることができない地域・自治会のネットワークを知りたい。（医療機関）

3. 認知症を理解する

地域での取り組みや工夫点

- ・認知症や虐待の早期発見には、集合住宅であれば同じフロアの方同士の気づきが重要。（自治会）
- ・身近な方々が、認知症をよく知り、状態が悪化しないように声をかけていくことが大切である。（薬局）
- ・認知症の内服薬も良いものが出てきており、予防に力を入れていくことが重要である。（医療機関）

課 題

- ・やはり認知症の方の対応で苦慮する場面がある。
（町自治会、民生・児童委員、ファミリーヘルス推進員 郵便局、JKK）
- ・認知症と虐待などの問題が絡んでおり、判断能力の低下や虐待の兆候に気付くことのできる体制が重要である。
（安心生活センター）
- ・身寄りのない方、金銭管理能力が低下した方の対応に苦慮している。（医療機関）
- ・認知症があると思われる方から「お世話にはなりたくない」と関わりを断り続けられることがある。（民生・児童委員）
- ・認知症サポーター養成講座を受けたが、自身の組織に認知症の対応部署がなく、具体的に専門的な対応をしていくことが難しい。（JKK）

地域から寄せられた課題から見えるもの

1. 地域で見守る

葛西南部地区は集合住宅が密集しており、町自治会数も多い。今回の地域連携会議を通じて、町会や自治会、民生・児童委員やくすのきクラブ、ボランティア団体など様々な住民主体の組織の単位で多様な形式での見守り活動（安否確認、サロン、喫茶、食事会等）が実践されていることがわかった。その一方で、自治会が未組織であったり、見守り活動の実施に至っていない集合住宅も多いと思われ、住民主体による予防的な見守りを実現していくためには、熟年相談室の役割と機能の理解を深めつつ、熟年相談室のネットワーク活動を通じて地域活動の実状と課題を丁寧に把握し、蓄積していく必要がある。また近年、町自治会への未加入者が増加しており、新聞を取らない方も多く、近隣とのかかわりを好まない方をどのように見守っていけるのかについては、見守りの必要性の判断基準と共に議論していく必要がある。

2. 地域でつなぐ

地域連携会議の開催を通じて、様々な団体や機関が地域での見守り活動を実践している一方で、関係機関同士の連携やネットワークが十分でないためにご本人の状態像の変化などの原因により活動への参加が難しくなった際の支援が円滑に進んでいないことが分かった。個人情報取り扱いには配慮が必要であるとはいえ、状態像の変化に応じた適切なサポート体制が切れ目なく行われていくためには、情報の把握と共に状態像の変化に気づき速やかに熟年相談室等の相談窓口「つなぐ」役割、すなわち地域のキーパーソンとしてのコーディネーターの役割が求められている。特にケアマネジャーや医療機関、サービス事業所などの関係機関間の連携をはじめ、関係機関と地域の住民主体の団体との連携、また住民主体の団体同士の連携など、多岐にわたった重層的な情報共有の仕組み、すなわち地域包括支援ネットワーク体制の構築のためには、行政や熟年相談室がコーディネーターとなり、関係各機関や団体が協力しながら連携の輪を広げていくことが重要であると思われる。

3. 認知症を理解する

今後ますます増加する認知症に対する地域の関心は年々高まりを見せていると感じており、認知症予防教室や認知症サポーター養成講座等へ積極的に参加する方々も多くなっている。しかし今回の地域連携会議での話し合いの中からは、実際の場面では認知症と思われる方への対処に苦慮しているとの声が多く見られた。認知症は、発見が遅れ重症化してから対応となることが多く、早期発見・早期治療を促進させるためには、初期段階での気づきが重要である。そのためには、ご本人、ご家族、地域住民への認知症の正しい理解と症状に応じた適切な対応が求められ、熟年相談室や医療機関等による啓発活動の発展的継続が求められる。また認知症により判断力が低下、金銭管理が難しくなった場合や病状の進行により、介護者の負担が増大することで虐待などの問題に発展するリスクがあり、住民主体の団体と医療機関、行政、安心生活センターや熟年相談室等が情報を正しく共有し、共通認識の下で対応していくことが重要である。

アンケート回収 26(51人中)

1)本日の地域連携会議は、今後の『地域連携』において参考になりましたでしょうか。

参考になった	22
あまり参考にならなかった	0
どちらともいえない	2
不明	2

2)本日のグループでの意見交換・情報交換について、感想をお聞かせください

時間配分は長かった	0
時間配分はよかった	9
時間配分は物足りなかった	12
不明	5

(1)本日の地域連携会議は、今後の『地域連携』において参考になりましたでしょうか。

東京都(江戸川区)と警察から主体的になって、独居や老々をチェックし、問題がありそうなら地域の人々が協力するようしくみにしないと、現状ではかなり無理があると思われる。ボランティアやNPOの善意だけでは解決しないと思う。上記のような公的な組織が必要。(医療機関)

多くの方とお会いできてうれしかった。とても勉強になった。(医療機関)

幅広い役割の皆様とお目にかかり、話を聞き、参考になる意見が多かった。(介護事業所)

人材と人材との出会いの場として、会が機能していくと、地域での輪が広がると思いました。(介護事業所)

種々の団体機関の方と交流が出来て良かった。(介護事業所)

色々な立場、地域などの情報(葛西地区)を聞くことが出来て良かった。(行政・公共機関)

一人一人の顔を繋ぐことができた。また意見や話を聞く時間もとてもよかった。(行政・公共機関)

様々な方面の方の参加で、話が聞けてよかった。(地域団体)

色々な立場の方の視点を知ることができた。(地域団体)

事例の紹介が良かった、事例の登場者が出席いただけたことは大変に良かった。(町自治会)

初めての方も多く、今後も続けて欲しい。(町自治会)

連携会議は意義あるものと思う。(町自治会)

個人情報が正しく守られることが分かり、安心して気になった方の見守りをお願いしたいと思う。

こんなにたくさんのネットワークがあり活発に活動していることが分かり頼もしい限りですが、熟年者の方をはじめ、地域の方がに知れ渡っていないと思う。皆さんのお話を聞けて大変気づきがあり良かったです。(民生委員)

貴重な話を沢山聞けて勉強になった。(民生委員)

2)本日のグループでの意見交換・情報交換について、感想をお聞かせください。

日頃の関わりのない自治会の方の活動を知ることができた。介護保険外でも地域には様々な社会資源があり心強く感じたが、そのような場所へ参加をつなげるには熟年相談室を頼らせていただいてよいのでしょうか。(医療機関)

グループの人数も話しやすい数で、皆様とディスカッションが弾み楽しかった。(介護事業所)

皆さんのもっともっと話したいという熱気が「次」へ繋がるのだと思う。(介護事業所)

地域の方々の熱心な参加意欲に触れて心強い限りと感じた。(介護事業所)

少人数での話し合いの為、自由に話しが出来て良かった。もう少し時間があればと思う。(行政・公共機関)

実際の体験を聞きながら、職場へ戻って伝えるべきことが出来て、出席してよかった。(行政・公共機関)

グループでの話がとても参考になった。(行政・公共機関)

個人情報得ずらい団地なので、ガイドブックで確認させていただきたい。(地域団体)

グループによって中心になる情報や総括が違って勉強になりました。もっとたくさんの方のお話を聞きたかった。(地域団体)

事前に今日の議題を知っていれば更によかった。言い足りないこともあった。(地域団体)

色々な意見があってよかったと思う。(町自治会)

初めての参加だったが、とても参考になり、このような会にもっともっと関わりたいと思った。(町自治会)

民生委員在任中は連携会議があり連絡が取れよかった。今回は自治会長含む広範囲の連携とてもよかったので、定例化していただければと思う。(町自治会)

もう少し一人一人の話を聞きたかったが、時間が限られているので、司会の人で区切り、質問風にしたらまとまったと思う。(民生委員)
もう少し長くても良かったと思う。(民生委員)
見守りについて意見交換できた。地域の見守りについて話をさせていただけた。(民生委員)
とても落ち着いた中で話し合いができた。皆さん活発な意見が出て、顔の見える関係づくりができたと思う。(民生委員)
介護保険に頼らない健康長寿を目指して地域の力でサポートできたら最高だと思う。色々なサロンやウォーキング等を実施していくことは有効だと思う。家から出ていくことは大切だと思う。色々なサポート、知恵を貸してくれる場所に巡り合えた気がしました。

3) 本日の会議を通じて、ご自身の地域や所属機関において、地域のネットワークづくりとして取り組みそうなこと等、ご自由にお書きください
会議の時間設定は難しいと思いますが、医療機関によっては14～16時は参加しにくい。13～15時なら最後まで出られると思う。診断書が必要な時は、風呂に入り時に尿や便の失禁している人がいたのでおむつにする等をしてきてから来て頂きたい。(医療機関)
認知症のネットワークづくり(医療機関)
・SOSシートははっていただけるよう、利用者様にお声掛けをしようと思う。 ・#7119の存在も伝えようと思う。(介護事業所)
独居の個人情報など、民生委員さんからイベントなどへの呼びかけをしてもらう等、段階的に名簿づくりや情報集めが出来るのではないかなと思う。(介護事業所)
職場の自治会の方との交流や、認知症・介護の情報発信をしたらお役に立てるかと思う。何か地域ニーズを掘り起こす活動につながる事が出来たらと思った。(介護事業所)
地域で一生懸命活動しておられる方や各機関の担当の方にお会いでき、何かあればSOSを出せることを心強く感じた。(行政・公共機関)
町自治会のつながりを大切にしていく。(行政・公共機関)
地域ネットワークづくりの大切さを知った。(行政・公共機関)
区関係、健康サポートセンター等へ出向き、情報を得るようにしたいと思う。知らないことが多いので勉強になった。(地域団体)
今後の訪問医療の事を聞きたかった。通院介助をしてお手伝い時間が長くなると費用負担が気になった。有償ボランティア(1時間1000円)も負担な方への支援を考えることがある。(地域団体)
色々と考えてみたいと思う。(町自治会)
各分野の方の意見が聞けて良かった。(町自治会)
やはり見守りを中心に、個人情報の問題があるが、地域各機関と密着していきたい。(民生委員)
ミニデイもしているので、今後お願いすることもあると思う。(民生委員)
認知症について(民生委員)

4) 今後の開催にむけて熟年相談室に対して期待されることがありましたらご自由にお書きください
各熟年相談室での開催の為、回数が多いなど正直なところ思っていた。しかし実際に参加してみると、普段はお会いできない自治会の方々から、地域の生の声が聞けたことが貴重でした。また是非参加したい。(医療機関)
年に3～4回は開催して、沢山の機関の方とネットワークづくりをしていきたい。(医療機関)
・多重困難事例、多種制度の支援を必要とするケースについてのサポートを希望したい ・情報を集めていただき、熟年相談室へ聞けば教えてもらえる・・という存在になっていただけたらと思う。(介護事業所)
今後もなぎさ楽苑と協力していきたい。(行政・公共機関)
出前講座など、お願いしたい。(町自治会)
時間をあけずにまた開けたらと思う。(町自治会)
地域に相談室の必要性をもっとPRして欲しいと思う。(町自治会)
・簡単に連絡を取れるネットワークづくり ・会報など(民生委員)
このような会合をまた開催されるようお願いしたい。(民生委員)
このような会を重ねていくことが大切と思う。(民生委員)

コミュニティ・ペーパー

JAFNA 日本生活情報紙協会加盟紙

http://www.jafna.or.jp

葛西新聞

葛西・西葛西地区 世帯数=95,627 人口=199,456 (平成25年4月1日現在)

平成26年

2月28日(金)

●毎週金曜日発行●

創刊/平成7年9月22日

発行/株式会社 明光企画

〒272-0143

市川市相之川3-2-13

TEL(047)396-2211

FAX(047)397-0325



熟年者を地域で見守り、支えよう

熟年相談室が地域連携会議

熟年者を支えるために

地域ができることを考える「地域連携会議」が、2月13日(木)は熟年相談室なぎさ和楽苑東葛西主催で、翌週20日(木)にはなぎさ和楽苑主催でそれぞれ行われた。

葛西地区では平成24年度に地区合同で会議を実施したが、より地域に密着した取り組みが必要との考えから今年度は熟年相談室ごとに開催しており、1月にはみどりの郷福楽園主催で会議が行われている。



50人を超える参加者があった(2月13日)

◇

会議にはいずれも、医療機関や町会・自治会、警察、消防、民生委員、熟年者支援関係団体などが参加し、地域の現状や課題を確認するとともに、それぞれの立場から活発な意見交換を行った。

13日の会議で代表あいさつに立った江戸川区医師会の浅岡善雄副会長は「熟年者に関わる者同士が、顔を合わせて情報交換することが大切だ」と話し、葛西地区自治会連合会の星谷精一副会長は「それぞれの町会が抱えている問題をぜひ教えていただきたい」と、出席者に呼びかけた。

14町・自治会が参加した20日の会議では、葛西地区自治会連合会の大関道彦会長代行が江戸川区内で増えている高齢者の一人暮らしについて触れ、「町会に入っていない人もいるので、そういう高

齢者をどう助けていくかも考えたい」と話した。

熟年相談室からは、葛西地区でも地域によつて高齢化率にばらつきがあること、高齢化率と熟年相談室への相談件数が必ずしも比例していないことなどが説明された。また、「相談が持ち込まれるルートは、役所や医療機関、施設などフォーマルなものを中心。近所や友人、家族、自治会などインフォーマルな部分をもっと増やしていきたい」との提言も。

グループに分かれて行われた話し合いではどちらの会議でも、「個人情報保護と地域福祉活動のバランスをとっていくことが不可欠」「地域で顔

が見える付き合いが必要」との意見が出た。

2つの会議を終え、なぎさ和楽苑地域包括支援センターの平井剛センター長は「それぞれの立場からの熱い思いを伺い、私たち熟年相談室がもっと地域を知る必要があると痛感しました。より地域に向き、私たちの役割をご理解いただけるよう努めたい。また、今後会議を重ねてネットワーク作りを進めたいと思います」と話した。



各グループで熱心に話し合われた(2月20日)